

〔禁中恒例年中行事〕正月六日 七種菜 是は若菜を竹籠に入、中に根松を立て、水無瀬家より奉らる、也。

〔光臺一覽〕七月正月七種之御粥を供す、

〔要筐辨志〕年中行事正月七日 一七種爲御祝儀、御三家様方并御嫡子様、松平加賀守、松平越前守、長袴溜詰半袴御出仕、但老若方も出仕、其外者無之、松平越前守、同隱岐守、同下總守、嫡子出仕無之、

〔江戸鹿子〕御城之年中行事正月七日 七種之御祝儀

〔東都歳事記〕正月七日 若菜人御祝儀、諸侯登城、

〔幕朝年中行事歌合〕上六番 右 七種參賀

むさし野の雪まにつめる七草は君が八千代の數にぞ有ける略○中

七種の參賀は七日の日、兩御所黒木書院に成らせ給ひ、三家の方々、溜詰の人々、御前に出てことぶきををのべらる、此日朝餉の時、若菜の粥を進め奉るとぞ、

〔執政所抄〕上正月七日 御干飯并七種御菜事 御飯 御炊上 御菜 封、荳、菘、薺、芹、藜、蕪、紫、菀、萱、艸、

味會鹽糟 件御菜出納等、任例調進之、年預下家司、兼日致廻文、政所厨女、當日早旦請取之、御料備折櫃旬出納居栗栖野土高坏進上御盤所、所料副之、藏人所 侍所 政所 御隨身所 小舍人

所 御廐 已上彼所々雜仕女請之、又宣旨殿政所雜仕女持參、

〔日次紀事〕正月七日 七草今日謂人日、良賤互相賀、自昨日至今朝、家々戰湯燔蕪、薺、藜等於砧、凡而俗間以七種菜、作羹、而食之、則無萬病云、今

〔日本歳時記〕正月七日 今日七種の菜粥を製し食ふ、七種菜といふは歌に、

せりなづな五形はこべら佛の座すいなすしるこれぞ七くさ五形は本草に蕪、薺、藜、草といへ